

随想やましろ

21世紀の医療はチーム医療であると言われていきます。ただチーム医療と言っても意味が二通りあります。一つは急性期病院と位置付けられた大きな病院でのチーム医療です。ここでは1人の患者に対して複数の専門医が協働してチームとして治療にあたります。

もう一つのチーム医療は医師と他職種との協働です。昔の医療では医師は絶対的な存在です。看護師は医師の指示を守り、医師の仕事を補助す

るという縦の関係で医療が行われていました。しかし介護保険が登場して約20年経過した現在は、



門阪 庄三

多くの専門職が広く医療に、特に高齢者医療に携わるようになりました。例えば脳血管障害発症時には手術や血栓溶解剤などが用意されていますが、多くの方にはこれだ

チームで医療とケアを

けでは医療は完結しませんが、これら初期治療の後に数カ月のリハビリテーションが必要で、このリハビリテーションの分野では理学療法士、それに作業療法士・言語聴覚士が活躍しています。彼らは医師が持たない知識や技術を持った専門職です。この三つのリハビリ

す。そしてとくに在宅の場でなくてはならない専門職が家事援助や身体援助を担ってくれるホームヘルパーです。

職の役割の違いを説明することは難しいかもしれませんが、またそれは別の機会にさせていただきます。そして専門職はそれだけではありません。介護福祉士や管理栄養士もチームの有力メンバーです。彼らの活躍の場は病院、施設だけではなく在宅においても増えていま

このような多くの専門職が互いに連携を取り合いながら医療・ケアを進めるチーム医療が在宅医療や高齢者・障害者医療には必須です。この仕組みが必要になった理由の一つは今日の高齢者医療では手術をすれば、薬を飲めばそれだけで良くなるということが少ないということです。そして医師だけで解決できることは限られているという事です。

(かどさか内科クリニック)